

## 神山と江田 のこと もっと知りたい

『長いこと住んでるけど、意外と知らない神山と江田のこと。』  
『最近引っ越して来たから、全く分からない神山と江田のこと。』

これから広報部会では、神山と江田にまつわる

むかし話や名所・旧跡などを紹介していきたいと思います。

第3号では、昭和55年に教育委員会から発行された“信楽むかし話”  
に掲載されている神山と江田のむかし話をご紹介します。

### ☁️ 笹が岳と金の鶏

笹が岳は標高738m、信楽では一番高い山である。  
長く裾を引いてそびえ立つ姿は雄大で気高く美しい。

この山の頂上近くには、その昔薬師様を本尊としたお寺があったということで、仏様にお供える水を汲んだという石積みの四角い古井戸が残っていて、今も水をたたえ続けている。

つい大正のころまでは、干天が続いて田に水が不足すると、この山の上で火を焚き、この井戸をかきまわして雨乞いしたような――。

これは神山にかぎらず、方々の村々でも山に登って火を焚き雨乞いをしたのであるが、神山の笹が岳はやはりこの地方では一番高い山ということで特に熱心であったようである。また、この井戸をかき回すと不思議に雨が降ったという。

筆者もたまたまこの寺跡を訪れたとき、一つの深さを調べてみようかと棒をさし入れたりなどしているうちに雨が降りはじめたのでウス気味悪く思ったことがあった。泥がたまっているものの、ありあわせの棒なんぞはズブズブとささってしまって、底知れぬ深さを感じながら急いで山を駆けおりたものだった。

元旦の朝には、この井戸の底から金の鶏が現れてときをづげるという伝説があって、神山の滝の名も鶏鳴の滝と名付けられた。初日の出の輝きを金の鶏のはばたきと見たのでありましょう。

笹が岳



### 🐟 お薬師さんのドンジョウ汁

村はずれの、みこし休みに近いところにあったかごまさはんと言う家に、宮大工だという一人の旅人が立ち寄った。

「何とまあ、村中灯の消えたような空気だが一体どうしたのです…。ああ御主人、あなたは黒ほうそうにかかっているな。それでわかった。村中悪い病気で困っていなはるか、泥鰯汁がよい、どじょう汁をな お薬師さんの薬と思うていただきなさい…。ああそれからは、今しがたお宮さんに参りして来たが、お薬師さんがお宮の本殿の中に宿借りしてござったが、あれではお薬師さんも肩身のせまいことに違いない。別にお堂を建てなさい…。」

といろいろと親切に教えて、どこへともなく立ち去った。教えられた通り泥鰯汁を食べてみると、かごまさはんの病気は間もなく全快した。



これはきっと薬師如来のおつげに違いないということで、あくる年からは、お薬師さんの日には村中で泥鰯汁をいただくことになった。

どじょうを慰めるために、ごぼうやにんじん、ねぎやそうめんとなるべく細長いものをたくさん入れて、泥鰯たちの冥福を祈りながら、その姿のなくなるまで半日も煮込んで、薬師さまの薬汁としていただくこととした。九月八日の薬師のどじょう汁である。

村々をめぐる盆踊りも、そろそろ終わりに近づいて浴衣一枚では肌寒いけれど、そこはどじょう汁で精をつけて陽気に踊りまくと、すべての悪病退散となる。今日の科学でいうならば、栄養と運動と精神衛生が健康のもとという教えであろうか。

御本尊は、優美に落ち着いたお姿で、極彩色の蓮台にお座りの、とてもきれいな定朝様式の木像である。